

特定事業者排出量削減計画書(新規(変更))

(あて先) 京 都 府 知 事		2007 年
住所(法人にあっては、主たる事業所の所在地) 〒604-8502 京都市中京区油小路通二条下ル二条油小路町282番地		氏名(法人にあっては、名称及び代表者名、記名押印) 藤田ホテルマネジメント(株) (藤) 代表取締役社長 佐野 正 電話 075 - 222 - 1123

京都府地球温暖化対策条例第18条第1項(第18条第2項、第18条第3項)の規定により提出します。				
特定事業者 の主たる業種	ホテルサービス業			
該当する 事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第4条第1号該当事業者(大規模エネルギー使用事業者(原油に換算して1,500キロリットル以上)) <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第4条第2号及び第3号該当事業者(大規模運送事業者(トラック又はバス100台以上/鉄道車両150両以上)) <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者(その他の温室効果ガスの大規模排出事業者(二酸化炭素に換算して3,000トン以上))			
計画期間	平成 18 年 4 月 ~ 平成 20 年 3 月			
基本方針	消費エネルギー節約等での各部門の徹底指導、熱源機器の改修及び省エネルギー型の機種変更ならびに、機器分散方式でのエネルギー消費量及び排気ガス4パーセントの削減を目指し、4パーセント以上のCO ₂ 排出量を目標に協力会社にも、環境方針遵守への協力を依頼方針。			
推進体制	社長以下各部署及び協力会社の組織化を踏り地球温暖化対策に、対する認識指導解決案の促進に努め、3ヶ月単位の報告会議を実施予定。			
年度ごとの具 体的な取組及 び措置計画	年度	設備、対象 工程等省	計 画 内 容	
	18~19	施設管理 (機械室)	【京都国際ホテル】(冷凍機)平成18年度には、旧240t×2台、吸収式温水発生機を、 在来製品省エネ型-RCPGN012HU2・120t×4台に分散化予定。(4~3.5%削減見込み)	
	18~19	施設管理 (機械室)	【京都国際ホテル】(ボイラー)現保有水量3t炉筒煙管式ボイラー2基、性能・燃焼効率低下が見込まれ、 省エネ・分散型に変更計画中。(4~3.5%削減を達成機種・メーカー模索中)	
	18~19	施設管理 (機械室)	【ホテルフジタ京都】(冷凍機)旧90t×3台、吸収式温水発生機を、《YAZAKI,アアース》近年中に取替え 予定、予算確定し設置場所・工期及び省エネタイプ機器の模索中。	
	18~19	施設管理 (機械室)	敷地内に設置照明分対してのランプ類を見直し、照度を下げずに消費電力及び放熱量を押える タイプに随時取替えていく方針。【京都国際ホテル・ホテルフジタ京都共】(4~3.5%削減メーカー模索中)	
	18~19	営業部 (宴会接客)	宴会会場々の準備等に要する照明・冷暖房・試験点灯の時間短縮での節電徹底、 (バック部の不必要な電気使用)【京都国際ホテル・ホテルフジタ京都共】(2%削減見込み)	
	18~19	調理部 (機器等)	調理機器ガス・電気の省エネに努める、 冷凍庫・冷蔵庫の開閉及び庫内物品整理(庫内冷気循環を思考)【京都国際ホテル・ホテルフジタ京都共】(2%削減見込み)	
温室効果ガス の排出量等	排出区分	基準年度(実績) (17)年度 (二酸化炭素換算(トン))	目標年度(計画) (19)年度 (二酸化炭素換算(トン))	削減率 (計画) (パーセント)
	A 事業所等排出区分	5,899.5 t	5,693.0 t	-3.5 %
	B 輸送車両排出区分	t	t	
	C その他排出区分	t	t	
合 計	5,899.5 t	5,693.0 t	-3.5 %	
その他の地球 温暖化対策に よる温室効果 ガスの削減量 等	対策等の区分	目標年度(計画) 取組量等 (二酸化炭素換算(t))		
	森林の保全及び整備	(設備面積)	ha (吸収量)	t
	府内産の木材の利用	(利用量)	m ³ (削減量)	t
	自然エネルギーを利用した電 力又は熱の供給	(売電量)	kwh (削減量)	t
		(熱供給量)	GJ (削減量)	t
	グリーン電力の購入	(購入量)	kwh (削減量)	t
	削減量等合計			t
差引排出量 (排出合計-削減等合計)	基準年度(実績) 5,899.5 t	目標年度(計画) 5,693.0 t	削減率(計画) -3.6 %	
特記事項	1) 当社では、最小限のお客様でも、御来館の際、各部門でのサービスを提供せざる為、 節約には低限界点を目指して寄りいっその努力を惜しまず、排出量の削減に努めて来ましたが、本年度4~9月利用客が昨年より多少多 くなり、半年間の累計が昨年より上まわる数値に至りましたが、 目標をしっかりと認識し、より良きエコロジー製品の設置・検討並びに従業員一同の環境教育実施に努める。 2) 協力会社の保守管理運転又携わる関連業者の技術提供を受け、 エネルギー消費効率を改善し、CO ₂ 排出を押さえ機器性能効率上昇を目標に努めております。			
連絡先	担当部署			
	担当者氏名			
	住所			
	電話番号			
	ファクシミリ番号			

注1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外で自主参加される事業者の方は、レ印の記入は不要です。

2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度をいいます。

3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。

4 「特記事項」には、平成2年度(1999年度)を基準とした排出量の対比やエネルギー原単位CO₂排出量、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達採用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。